

京都子ども守り隊～守るんジャー～（京都府）



全国守るんジャー集合！安心安全まちづくり京都大会

若い力で地域を守ろう～学生防犯ボランティアの輪を広げよう～

1 京都子ども守り隊～守るんジャー～（京都橘大学）の概要

(1) 結成の趣旨等

(ア) 子どもの安全を守るため、大学生が出来ることはないかと考え、大学近くの小学校の通学路の安全を大学生の手で守る活動を行うことを目的に、平成18年7月18日、京都子ども守り隊「守るんジャー」を結成した。

(イ) 「守るんジャー」は全国規模の団体であり、平成17年12月に高知大学で「守るんジャー」の活動が開始され、現在、四国学院大学、中京大学、岡山大学、北九州市立大学、愛媛大学、京都橘大学の全国7大学にあり、小学生の通学路を見守っている。

(2) 組織編成

(ア) スローガン

「safe Kyoto for Children、安全な京都を子どもたちのために」

(イ) 隊員数

107名

2 活動地域の状況

(1) 山科区大宅地域の特徴

山科区大宅地域は、京都市の東に位置する。京都市域のベッドタウンとして発展した地域で、新興住宅と旧来の住宅が入り交じった住宅密集地域となっている。

(2) 問題点

戦火を逃れた土地のため、細い旧道が多く残っており、バスや車はその細い旧道を走るため、交通・防犯上の危険を感じる。

3 活動内容

- (1) 下校指導パトロール
 - (ア) 活動日時
毎週月曜日から金曜日、午後2時30分から午後4時頃まで実施
 - (イ) 活動場所
京都市立大宅小学校周辺の死角の多い危険箇所
 - (ウ) 活動方法
2名以上でペアを組み、シフト制で活動
- (2) 地域生徒指導連絡協議会、PTA等との合同活動
 - (ア) 夜間パトロール
午後8時から午後10時までの間、自治会、PTA、教職員等と合同でグループ別にパトロール活動を実施。
 - (イ) 広報啓発活動
PTAや自治会等と合同で地域のスーパー、駅周辺を中心に啓発用品を配布しながら「地域の子どもは地域で守り育てよう」と呼び掛け、広報啓発活動を展開。
 - (ウ) 意見交換会
年に約2回、地域の方々と一緒に、子ども安全活動について意見交換会を開催。
- (3) 他府県大学との連携交流
他府県の「守るんジャー」や他大学の教員を目指す学生との活動交流
 - (4) 地方公共団体、警察関係等が主催する防犯イベントへの参加
 - (ア) 平成19年の「安全・安心まちづくり京都大会」では、企画段階から参画し、大学生ならではのアイデアで司会、京都市立大宅小学生との防犯寸劇の披露、各防犯ボランティア団体とのトークセッション、地域安全宣言等を行った。
 - (イ) 平成19年7月19日、子どもの安全活動をテーマとした「知事との和い和いミーティング」にて、結成の経緯と日々の活動内容、活動を通じて感じたことについて知事等参加団体との意見交換や今後の抱負を発表した。

4 活動に対する評価

子ども見守り活動の功労が認められ、平成19年3月23日、平成20年2月1日、京都市教育長からの感謝状を授与。

5 活動を開始したことによる地域や子どもたち、保護者の変化

- (1) 保護者による子ども見守りパトロール活動の負担軽減
- (2) 下校時における子どもの安全確保
- (3) 大学生の活動に影響を受け、地域住民の防犯活動が活性化

6 今後の課題

- (1) 活動の継続
- (2) 防犯活動の輪の拡大
- (3) 「守るんジャー」のいない地域社会づくり

7 最後に

私たちの活動はホームページで公開しております。是非ご覧下さい。



PC版：<http://kyotomamo.que.jp/>
携帯版：<http://kyotomamo.que.jp/i/>

京都子ども守り隊～守るんジャー～（京都府）



恵美：それでは今から、京都子ども守り隊「守るんジャー」の発表をさせていただきます。

わたしは、京都橘大学文学部児童教育学科2回生の京都子ども守り隊「守るんジャー」代表を務めております恵美雅哉です。よろしくお願いします。

和久：同じく文学部児童教育学科2回生和久です。

恵美：さて、今日、わたしたちは「若い力で地域を守ろう、学生ボランティアの輪を広げよう」というテーマで発表させていただきます。

京都子ども守り隊「守るんジャー」の概要

全国各地で小学生が犯罪の被害に遭うという事件が多発する中、京都太秦でも同様の痛ましい事件が発生いたしました。そこで、大学周辺の子どもたちが涙を流さないように、わたしたち大学生ができることはないかと考え、大学生の手、地域の手で子どもたちを守らなければいけないと考えました。そこで小学生の下校時の見守り活動を行いたいという思いが強まり、平成18年7月18日、京都橘大学を本拠地とする京都子ども守り隊「守るんジャー」を結成いたしました。

さて、皆様、「守るんジャー」とはどのような団体かご存じでしょうか。守るんジャーは、全国学生ボランティア団体です。守るんジャーの活動は、平成17年12月に、高知県高知大学での活動を機に、愛媛県愛媛大学、香川県四国学院大学、愛知県中京大学、福岡県北九州市立大学、岡山県岡山大学、そしてわたしたち京都府京都橘大学の全国7つの大学で活動が展開されています。

わたしたち京都子ども守り隊「守るんジャー」は「Safe Kyoto for Children、安全な京都を子どもたちのため」というスローガンのもと、日々活動を展開しております。このスローガンには2つの意味が込められています。1つ目は、一人でも多くの子どもたちが笑顔で安心して下校できるようにしよう。2つ目は、地域と連携し合って、より安全な環境をつくっていこう。この2つを目標に日々活動を行っております。

わたしたちは現在、107名の隊員で活動



を展開しています。1回生、2回生が多いのは、2年前、児童教育学科が設立され、子どもに関心を持った学生が増えたからです。2つ目は、活動を実際に見学しに来てもらい、無理のないボランティア活動として自ら入隊してくれたからです。わたしたちは、このような活動を行う上で一定のルール、目的を持ち、犯罪、事故の予防を図るよう活動を展開しています。

活動を展開する山科区大宅地域とは？

山科区大宅とは、京都市の東に位置し、隣は滋賀県大津市になります。京都市のベッドタウンでもあり、振興住宅、旧来の住宅が入り混じった住宅密集地であります。

さて、この大宅地区では問題点があります。それは戦災に免れた土地であり、細い旧道が多く残っています。その旧道を多くのバス、車が走っています。そのため、わたしたち大学生が歩いている、交通、防犯上の危険を感じることもあります。

下校指導パトロール

このような山科区大宅地区で、わたしたちは主に下校指導パトロールといった活動を行っています。毎週月曜日から金曜日、午後2時半から午後4時。京都市立大宅小学校周辺の交通量の多い危険な場所を中心に、その日の活動隊員数に応じて活動を行っています。

それでは、わたしたちの主な活動場所を見てください。まず1カ所目です。点滅信号交差点です。こちらの交差点、横断歩道は子どもたちが一番多く通る横断歩道であります。また、学校の目の前の大きな道路の1つであります。この道路は近くにバスの車庫がある関係でバスも多く通りますし車も多く通ります。2点目。こちらも点滅信号交差点です。こちらは夕方になるにつれ交通量は増えます。また、人目が少ないため、信号無視をする子どもも多くいます。また、最近ではコンビニが増え、交通量も増えています。3つ目は、見通しの悪い十字路です。こちらの十字路は変則十字路になっております。車も通りますが自転車、原動付自転車が多く通るため、意外に危ない場所として活動ポイントに定めています。

3つの活動ポイントで活動しているわけですが、活動方法、注意事項としては、隊員が授業の空き時間を利用しシフト制で活動を行うこと。活動は必ず2名以上。天候が悪い場合は中止。



そして何より、自分自身の安全を第一に無理なく活動を展開しています。

活動を行う上で必須アイテムとして3点あります。まず1つ目が、ピンクのポロシャツ。そしてウィンドブレーカーです。ピンクのポロシャツは入隊と同時に各自がお金を出し購入



入しています。ウィンドブレーカーは、昨年、地域より寄付いただきました。とにかく目立つような色ということでユニフォームはショッキングピンクにしています。

必須アイテム2といたしまして、名札です。こちらの名札には平仮名で大きく名前を書き、小学校1年生から、そして地域の人から誰でもが読みやすいように名札を首からぶら下げ活動に参加しています。こちらの名札は、初代幹部の皆様よりいただきました。

必須アイテム3といたしまして、腕章です。こちらの腕章は地域の皆様より寄付していただきました。地域子ども守り隊もわたしたち守るんジャーと同日、平成18年7月18日に結成され、たまたまチームカラーが同じになり、意気投合し、今では地域とともに連携し合って活動を展開しています。

地域生徒指導連絡協議会、PTA との合同活動

わたしたちは日々の下校指導パトロールだけではなく、地域との活動も大切にしています。地域との活動は大きく分けて3つあります。

(1) 月に一度の夜間パトロール

毎月第3土曜日、午後8時から午後10時に活動を行っています。まず、出発拠点である地域の自治会館に集まり、活動での注意事項、連絡事項を行っています。そして活動には5名から6名が1グループとなり活動に出発していきます。ルートの確認、危険箇所の確認。そして、この蛍光の服を着、自分自身の安全にも気を付け、徒歩でのパトロールに出発していきます。

また、徒歩でのパトロールと同時に、青色回転灯でのパトロールも実施されています。パトロールは毎月第3土曜日、午後2時から午後3時、午後8時から午後10時、午後10時から午後11時の3部分かれて毎月行われています。わたしたち守るんジャーは午後8時から午後10時の部に参加させていただいております。

(2) 広報啓発活動

学期末に地域のスーパー、そして駅前にてティッシュ配りを行いながら、地域の皆さんに、「地域の子どもは、地域で守り育てよう」というスローガンのもと皆さんに訴え

掛け、地域を挙げて地域の子どもを守っていこうと活動をしています。

(3) 意見交換会

地域の安全、地域の守り隊の皆様、PTAの皆様、教職員の皆様、そして守るんジャーで夜に集まり、活動での気付いたこと、また、警察の方々には地域の状況の説明等を行ってもらっています。

また、グループに分かれ、グループディスカッションを行い、今後のパトロールについての課題等、話し合っています。

他大学との連携交流

次に、わたしたちは、他大学との連携交流も行っております。その1つといたしまして、他府県の守るんジャーとも活動を交流しています。また、府内の他大学の学生で、将来、教員を目指す学生との活動交流も行っています。立命館大学 Bridge、また、滋賀大学 GETS といったメンバーとも活動を交流しています。

京都府・京都市、警察関係等のフォーラムに参加

次に、わたしたちは、京都府京都市の警察関係等のフォーラムにも参加させていただいています。昨年、「安心・安全まちづくり京都大会」に企画段階から参加させていただきました。司会、小学生との寸劇、トークセッション、地域安全宣言を全国守るんジャーとともに盛大に行うことができました。寸劇では、大宅小学校4年生の子どもたちが不審者に襲われるといったシーンで、守るんジャーがそれを助けるといった寸劇を行いました。また、マイクランナーでは、ステージ上で、問題となったテーマについて会場の皆さんに声を聞くといったことも行いました。寸劇、マイクランナー、トークセッション等さまざまな企画を全国守るんジャー、そして京都府内の学生全員で成功させることができました。

最後には、守るんジャー全代表、そして地域の代表お互いが、手を取り合いながら、さらに防犯活動をし、安全で安心し、暮らせる地域社会の実現に一層努力すると全国に向けて若いパワーを発信してくれました。

また、昨年7月19日に、子どもの安全をテーマとした京都府知事との「わいわいミーティング」にも参加いたしました。わいわいミーティングでは、結成の経緯、日々の活動の様子等、知事そして参加団体の皆さんと意見交換を行いました。



わたしたちはこのほかにも、さまざまな活動を行っています。その一つといたしまして、隊員ミーティングです。隊員ミーティングでは、意識の再確認。また、校長先生、地域の役員の方にもミーティングに参加していただき、意見交換を行いながら共通認識を持って活動を展開するようにしています。また、地域の消防団、消防署の方々の指導による応急救護、AED講習会。警察の方の指導による護身術講演会を実施しています。いざというときのため、自分自身のため、こういった講習会を年に1回、開催しています。また、地域との連携を深めるため、地域の触れ合い餅つき大会、祭りの補助にも参加させていただいています。

このようなわたしたちの活動が認められ、平成19年3月23日、平成20年2月1日の2回、京都市教育委員長より、感謝状をいただきました。

わたしたち守るんジャーが大宅地区で活動を展開したことにより、地域、子どもたち、保護者の皆様は大きく変化したようです。変化した1つ目のポイントといたしまして、保護者のパトロールの負担が少なくなりました。2つ目に、子どもたちが安心して下校できるようになりました。3つ目は、不審者が減少いたしました。そして、わたしたちの活動を受け、地域の皆様も活動が活発化してきています。

今後の目標

わたしたちの今後の目標といたしまして、無理なく、けがなく活動することです。地域と一体となり、子ども、そして地域の安全を大学生の目線から守り続けていきます。2つ目は、地域の行事に参加することで、守るんジャーの認知度、守るんジャーを地域の皆さんに知ってほしいと考えています。

また、現在は7つの大学で守るんジャーの活動は展開されているわけですが、47都道府県全部で守るんジャーの活動が広がり、「Safe Japan for Children、安全な日本を子どもたちのために」という目標が達成できるような日が来ることをわたしたちは願っています。そして、何より、守るんジャーの要らない地域社会づくり、安全環境づくりに努めていきたいと考えています。

恵美：わたしたちは子どもたちのお礼の言葉、そして笑顔が日々の活動源となっております。今後とも子どもたちのため、そして地域のため、無理なく、けがなく、活動を続け

6、今後の目標

- (1) 活動の継続
地域と一体となり、
子ども、そして地域の安全を
大学生の目線から守り続ける。
- (2) 地域行事への参加で認知度を上げる
- (3) 若いパワーで活動の輪の拡大を図る
- (4) 「守るんジャー」のいない
地域社会づくり、安全環境づくり

ていきたいと思います。

最後に、日々の活動の様子はホームページにて掲載しております。携帯からもごらんになれますので、ぜひ一度ごらんください。

司会：大変ありがとうございました。さらに多くの大学で守るんジャーの活動が広がっていくことを期待しています。

それでは、今の発表につきまして、何かご質問ありましたら挙手をお願いします。

：107名というふうに出ておりますけど、このうち青パト従事者というのは何名ぐらいいるのですか。その青パト従事者には、警察のほうから実施者証というのが出ているのですか。

恵美：青パトは、大宅地域子ども安全守り隊で、守るんジャーとは別になります。大宅こども安全守り隊の方が運転され、その車にわたしたちが乗り込ませていただいて一緒に活動をさせていただいている形です。そのため、守るんジャー自身がそういった証明書を持って青パトを運用しているわけではございません。

：大学からの援助とかそういったものはあるのですか。

恵美：現在のところ大学に本拠地は置いてますが、大学からの援助はありません。活動資金は、年間、隊員から500円を集め、活動を行っている状況です。

：皆様と連絡を取る方法はありますか。

恵美：ホームページの一番下に掲示板というのがございます。そちらのほうに、お名前、そして連絡先等を書いていただければ、随時、広報担当がホームページをチェックしておりますので、多少、時間がかかることがございますが、必ずご返信させていただきます。

：今後の課題ということで最後に、「守るんジャーのいない地域社会づくり」ということが書いてあるのですが、恵美さんは、具体的にまず、守るんジャーの要らない、ボランティア団体の要らない地域社会づくりというのに対して、まず何が重要だとお考えですか。もしあったら教えてください。

恵美：まずは犯罪をなくすために、地域と連携して、地域を挙げてやっていくことが大切だと考えています。

